

佳作

ゆづきを出す大切さ

愛知県瀬戸SOLAN学園初等部四年 諏訪 文音

私は人に声をかける事があまり得意ではありません。人見知りでなかなか声をかけることができない私でも、知らない人に気づかいや思いやりができるようになったのはあの動画のおかげだと思います。ある夏休みの日、SNSで、障がいの人がいいたら周りの人は助けるのか、という韓国の社会検証動画を見ました。

足が不自由な人がくつひもを結ぼうとしていました。そこで無視する人もいましたが、もちろんくつひもを結ぼうと手つだってくれる人もたくさんいました。また、いっしょに目的地の場所まで歩いてあげる人もいました。

私は「すてきだな、私もこまっぺっている様子の人がいたら助けてあげられるようになりたいな」と、他人のために行動する姿にあこがれる思いをもちました。

動画を見た二日後くらいに私はプールに行きました。小さい子からでも乗れるウォータースライダーを見つけた。

そのスライダーにのろうとしたところ、後ろにだれかが並んできた気がしました。

それは三歳くらいの小さい妹と小学生くらいのお姉ちゃんらしき二人が並んできました。

小さい子は早くのりたそうにしていたのでゆずった方がいいのかなと少しとまどいました。

でも声をかけたらめいわくではないかと私は考えてしまいました。いよいよ私がスライダーをすべるときになった時、私はあの動画を思い出しました。

私はあの動画で人助けしたすがたにあこがれていたのにここでゆずらないのは少しおかしいと思ったので、私は勇気を出して後ろの二人に声をかけました。

「先どうぞ！」

その二人がすべり終わったあと、お姉ちゃんが私の方に少しかけよって、

「ゆずってくれてありがとう。」

と感じゃの言葉をくれました。

私はとてもいい気持ちや、温かい気持ちになりました。

した。

かつての私は人に声をかけたくてもかけられなかったのに、あの動画のおかげで声をかけることができるようになってとてもうれしくなりました。

その後も、駅の改札近くに落ちていた物を拾って駅員さんに届けたり、自分にとっては関係のない借金活動でもスーパーに置いてあったお金をしたりすることができました。

他人のために何かすることは、自分も相手もいい気持ちになるので、すごくいいことだと思いました。また自分もそのように思いやりの行動をされた時はありがたいです。

これからも、人に対しての思いやりや、気づかひができるよう、色々と努力したいと思います。